
VISUALIZE THE FUTURE



2015年3月期 第2四半期

決算説明会

株式会社デジタルメディアプロフェッショナル

2014年11月11日

本資料に記載された意見や予測などは資料作成時点での当社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではありません。
様々な要因の変化により実際の業績や結果とは大きく異なる可能性があることをご承知おきください。

1

2015年3月期 第2四半期 決算説明

2

2015年3月期 通期業績予想

3

中期経営計画 (2014年3月期～2019年3月期)

1

2015年3月期 第2四半期 決算説明

2

2015年3月期 通期業績予想

3

中期経営計画 (2014年3月期～2019年3月期)

1. 半導体市場全般

グローバル

- スマートフォンや車載用途の半導体需要が好調に推移
- 2014年7月の世界売上は281億ドル
（前年同月比+9.9%、月間売上で過去最高）（*1）
- 2014年の市場予測は前年比 +6.5%。2015年以降も更なる成長が見込まれる（*2）

国内

- 2014年7月の日本市場売上は前年同期比+2.0%
世界市場の伸びよりも下回るものの、プラス成長（*1）
- 国内メーカーの不振が依然として継続

（*1） 2014/9/2 The Semiconductor Industry Association (SIA)発表

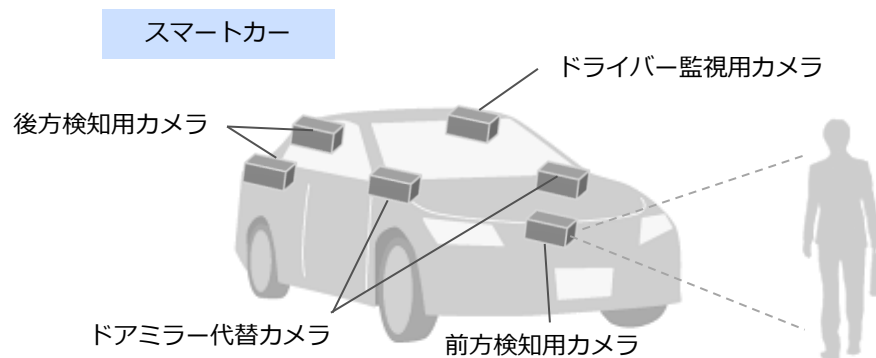
（*2） 2014/6/3 World Semiconductor Trade Statistics(WSTS)発表

2. ビジュアル・コンピューティング分野

- ・ 車載系の市場が引き続き拡大。車のIT化が進み、車載センサーやディスプレイの高機能化が進む
- ・ 画像処理やユーザーインターフェイスのニーズが多様化、ウェアブルデバイスなどで低消費電力への要求がさらに高まる

～ビジュアル・コンピューティングの可能性～

◆ 車載用カメラセンサーで自動運転も可能に



◆ ウェアラブル端末で高機能化

スマートグラス



スマートウォッチ



取組み

- ランニングロイヤリティの単価改善
- 当社の画像系技術を活かした新たな受注を複数獲得
- 世界最小のグラフィックスIPコアの開発（*）
- 次世代LSIの開発を着々と推進

結果

売上：前年同期比約4割増

- ✓ プロフェッショナルサービス分野の受注案件増加
- ✓ コンシューマエレクトロニクス向けロイヤリティが堅調に増加

利益：営業損失を計上

- ✓ 当初計画通り、次世代LSIの開発費負担継続

（*）詳細10ページ

2015年 3月期 第2四半期 決算概要（P/L）-計画対比-

（単位：百万円）

	2015年3月期 2Q (計画)	2015年3月期 2Q (実績)	計画対比	
			(金額)	(増減率)
売上高	260	262	2	0.8%
営業損益	△260	△200	60	—
経常損益	△170	△133	37	—
当期純損益	△170	△133	37	—

- ✓ 営業利益：上期未執行分の L S I 開発費50百万円を下期へ持ち越し
- ✓ 経常損益：上記 L S I 開発費相当の助成金収入約30百万円が未計上

2015年 3月期 第2四半期 決算概要（P/L）-前年同期比-

（単位：百万円）

	2014年3月期 2Q (実績)	2015年3月期 2Q (実績)	前年同期比	
			(金額)	(増減率)
売上高	186	262	76	40.8%
営業損益	△191	△200	△9	—
経常損益	△100	△133	△33	—
当期純損益	△100	△133	△33	—

- ✓ 営業損益：LSI開発費の計上により、一般管理費が前期比+98百万円
- ✓ 経常損益：NEDO(*)からの助成金83百万円等を営業外利益として計上

*NEDO：独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構

2015年 3月期 第2四半期 決算概要 (B/S)

(単位：百万円)

	2014年 3月末	2014年 9月末	増減額
流動資産	1,896	2,092	195
固定資産	182	167	△15
資産合計	2,079	2,259	180
流動負債	54	59	4
固定負債	20	19	△0
負債合計	75	79	4
純資産合計	2,004	2,180	176
負債・純資産合計	2,079	2,259	180

✓ (株)UKCホールディングスとの提携にかかる自己株式の処分及び新株発行により純資産増加

1 世界最小サイズのGPU「ant」を開発（2014年7月31日公表）

▶ 0.5mm×0.5mm(*1)でGPU機能を実現

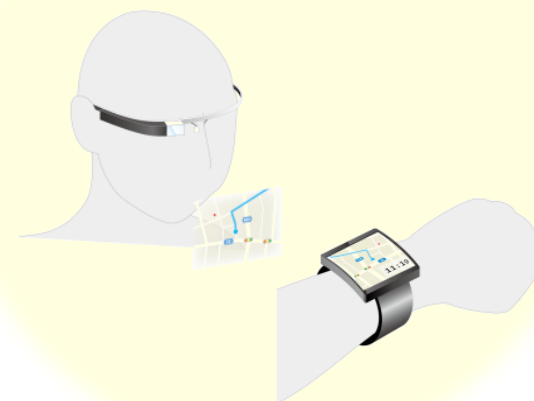
現在主要なスマートフォンに搭載されているGPUと比較した場合の面積比は1/20

*1. TSMC 28nmプロセスで実装した場合のコア面積

▶ 小型化と高機能化を同時に実現

世界最小のコアサイズでありながら、低消費電力かつ高い描画性能を搭載

適用製品イメージ



2 次世代LSIの開発を順調に推進

開発は最終局面に。来期以降の量産開始を準備中

3 戦略的提携の推進

(株)UKCホールディングス、(株)ヤマハとの提携については、効果的な協業に向けて施策を準備中

1

2015年3月期 第2四半期 決算説明

2

2015年3月期 通期業績予想

3

中期経営計画 (2014年3月期～2019年3月期)

2015年 3月期 通期業績予想

(単位：百万円)

	2014年3月期 (実績)	2015年3月期 (予想)	前年同期比	
			(金額)	(増減率)
売上高	355	580	225	63.2%
営業損益	△569	△400	169	—
経常損益	△365	△220	145	—
当期純損益	△366	△220	146	—

✓ 経常損益：NEDOからの助成金200百万円等を営業外利益として計上

売上面

売上高

- 当社既存のグラフィックス I Pに加え、システム I Pや提携先の画像認識系 I Pの拡販により、ライセンス収入の増加を見込む。
- 既存顧客からのランニングロイヤリティが単価改定により単価が上昇し増収となる。

利益面

営業損益

- 大幅な改善を見込むものの、前期に引き続き、次世代 L S I の開発費が発生するため、営業損失となる。

経常損益

- 営業損益段階での損失を N E D Oからの助成金で補い、経常損失額が低減

当期純損益

- 税効果負担等もないため、経常損失とほぼ同額

1

2015年3月期 第2四半期 決算説明

2

2015年3月期 通期業績予想

3

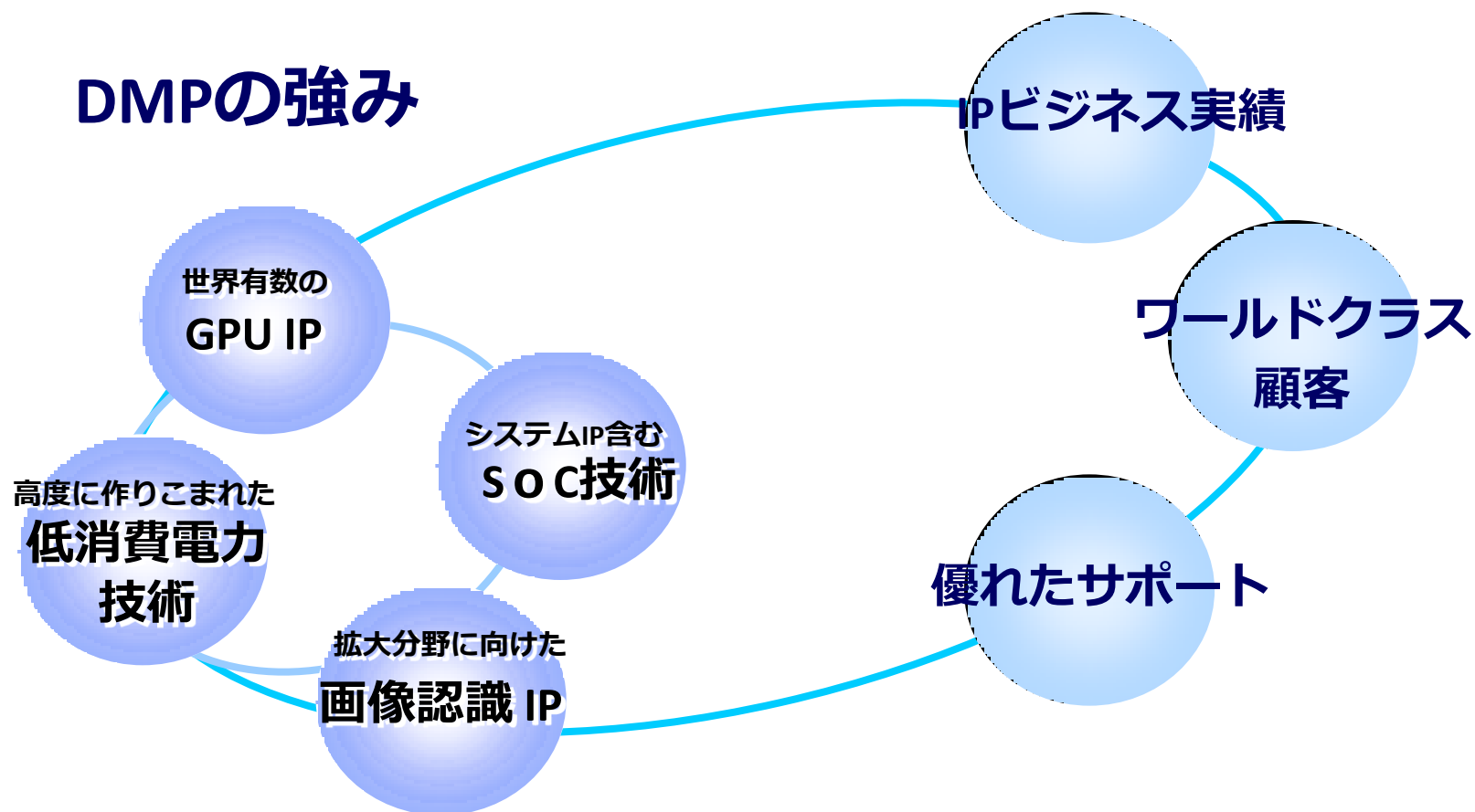
中期経営計画 (2014年3月期～2019年3月期)

ビジュアル・コンピューティング*分野の ワンストップ・ソリューション・プロバイダーになる

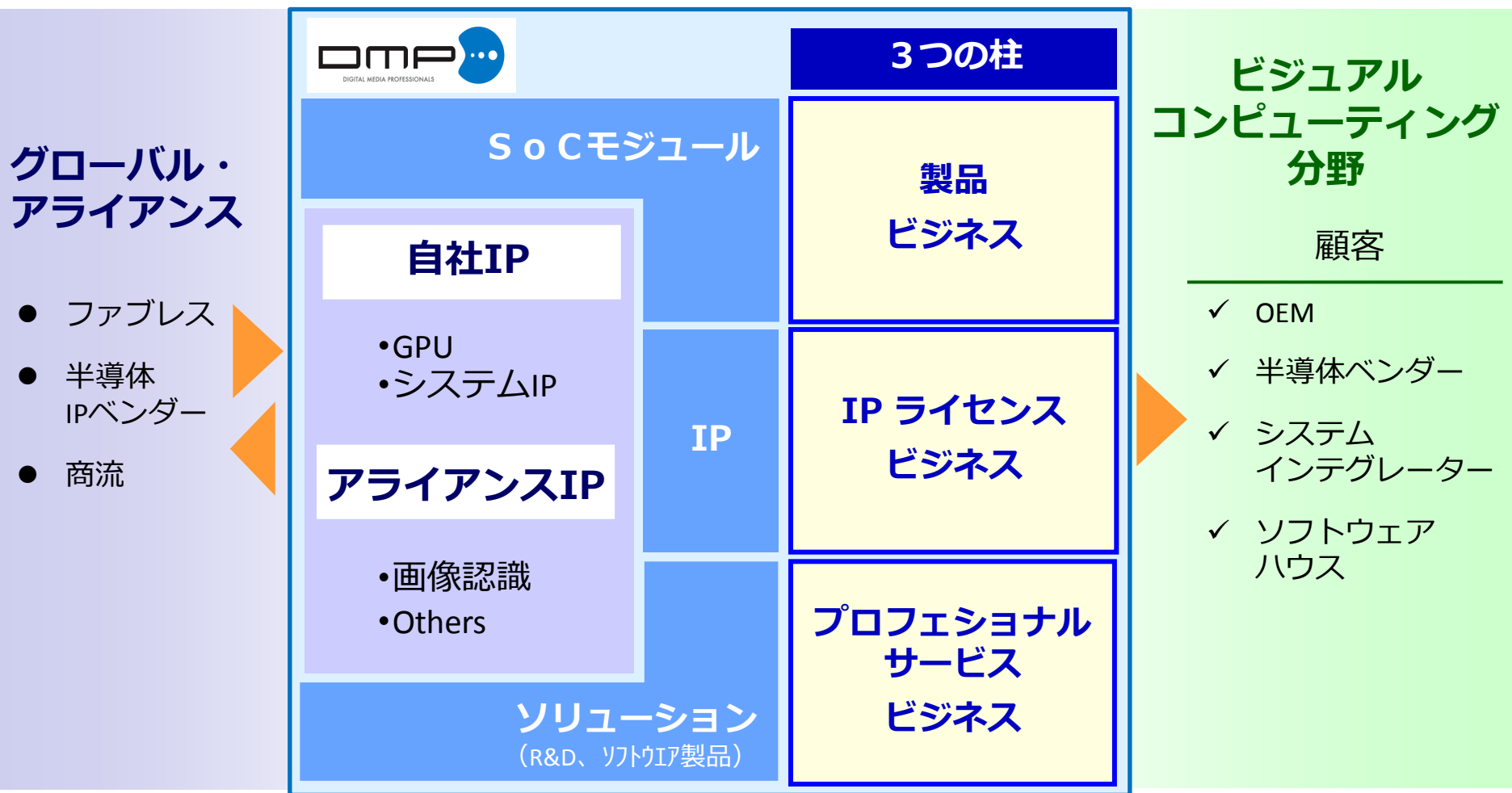
***ビジュアル・コンピューティング：**

グラフィックスないしは画像を介して行うコンピュータ処理総称

DMPの高い付加価値をもたらす半導体の中核技術とビジネス実績



独自のIPポートフォリオで、特徴のある製品・ライセンス・サービスを提供



強みをフル活用できる「3つの柱」で成長への基盤を構築

製品 ビジネス

自社IPを生かした競争力のあるSoCとソリューションの提供

- 強みを生かし「勝てる分野」でビジネス立ち上げ
- SoC/モジュール提供によるビジネス規模拡大

IP ライセンス ビジネス

成長分野で新規ビジネスを創出

- ビジュアルコンピューティング分野にフォーカス
- ポートフォリオ拡充、提案力強化

プロフェッショナル サービス ビジネス

高い技術力の提供とともに新たな分野開拓への要とする

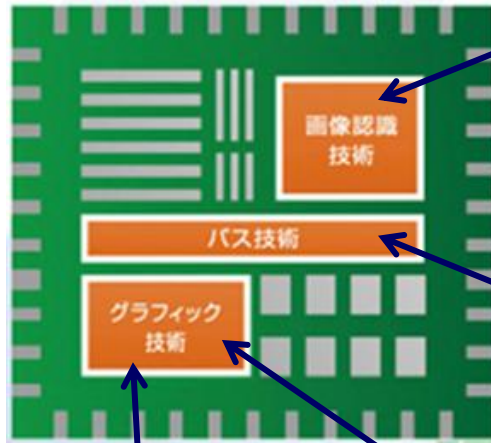
- GPU/ビジョン技術(自社/他社)をベースとした高付加価値サービスの構築
- R & Dの強化

体制・ コーポレート

アライアンスにより経営資源を強化

(商流・半導体開発・IP外部導入のパートナー)

低消費電力・高性能が実証された業界最先端のIPを提供



APEXシリーズ

画像認識プロセッサIP

- Computer Vision用、高性能低消費電力プロセッサ
- 人検出、顔認識、ジェスチャー認識等アルゴリズムライブラリを整備



Loputoシステムシリーズ

SoCインターコネクトIP

- 対応バスプロトコル：AMBA AXI, OCP, ACE I/Fサポート
- マルチレイヤー構成による低レイテンシ、QoSをサポート

DDRメモリコントローラIP

- DDR1/2/3/4, LPDDR1/2/3サポート
- SoCインターフェース：AXI, OCP / • DDR PHY インターフェース (DFI)

antシリーズ

UI Drowing Engine IPコア

- 0.5×0.5mm 世界最小コアサイズ
- 低消費電力、高い描画性能、歪み補正

SMAPHシリーズ

3DグラフィックスIPコア

- Khronos最新規格：OpenGL ES 3.0対応
- DMP独自拡張機能 MAESTRO



2DグラフィックスIPコア

- Khronos最新規格：OpenVG1.1対応
- 業界最小のIPコアサイズでフォント、地図、アイコン等のベクターデータのコンテンツを高速描画



成長するビジュアル・コンピューティング市場へフォーカス



ゲーム



ユーザー
インターフェイス



画像認識



自動車運転支援



コネクテッド・ホーム



モバイル・ビジョン



ウェアラブル・
コンピューティング



セキュリティ



ロボット／F A



医療



フェーズ1

「勝てる市場」で
S o C ビジネス基盤確立

フェーズ2

成長する I o T 分野へ拡大

ウェアラブル/自動車/ホーム/産業/家電などで
高度な画像処理を実現する製品

(従来)

I o T (*) ➡ 日本企業が強い分野で成長

モバイル／P C／T V

自動車／家電／産業／ホーム／医療／セキュリティ

数量

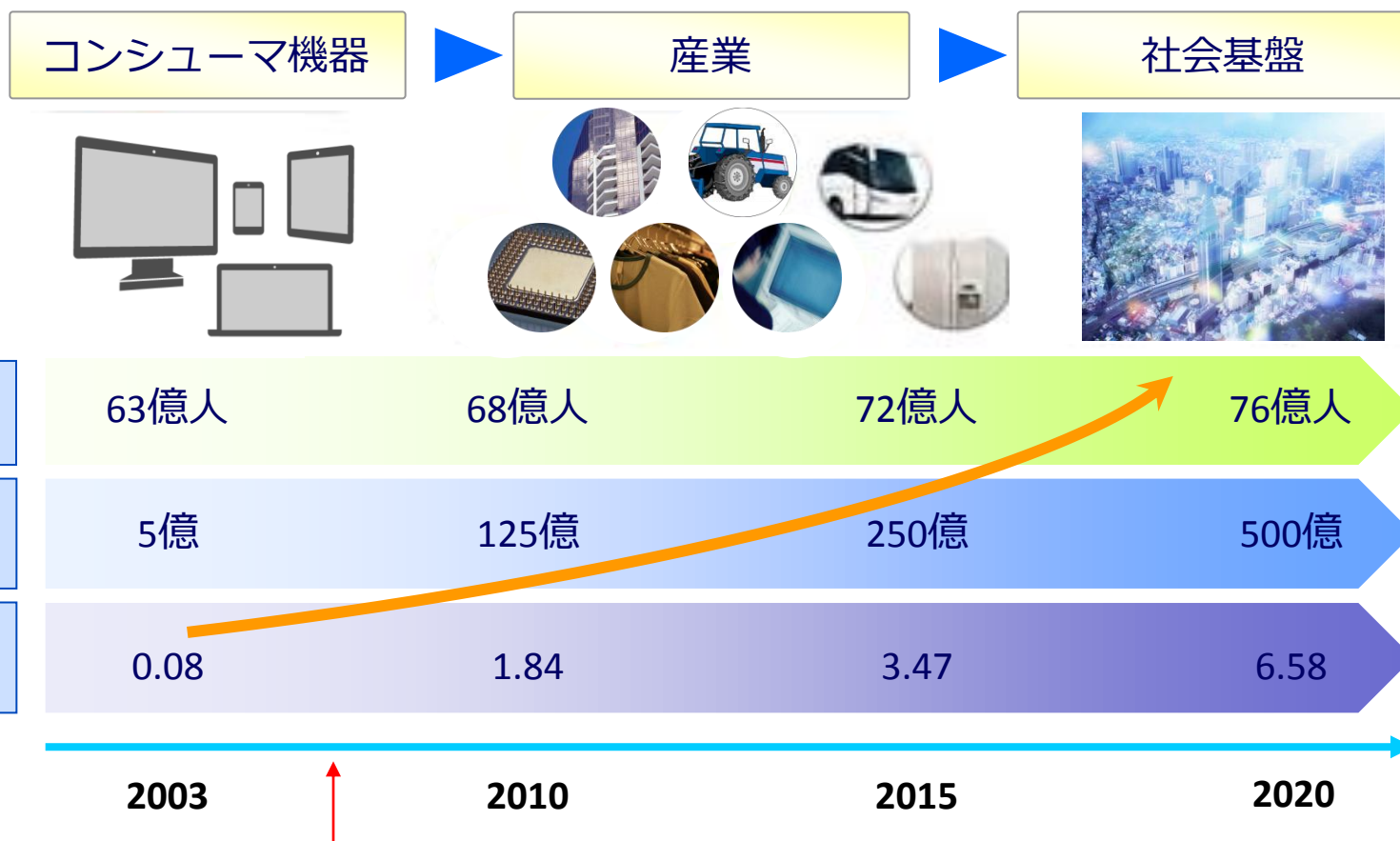


デバイスの種類

*** I o T (Internet of Things) :**

P C、スマホ・タブレット、ゲーム機といった情報通信機器にとどまらず、社会で利用される様々なモノに通信機能を持たせ、インターネットに接続したり、相互に通信することにより、自動認識、自動制御、遠隔計測などが行われること。

I o Tの到来 (出典：Cisco IBSG.2011)



インターネットに接続されるデバイス数が、世界人口を超える

ビジュアル・コンピューティング分野

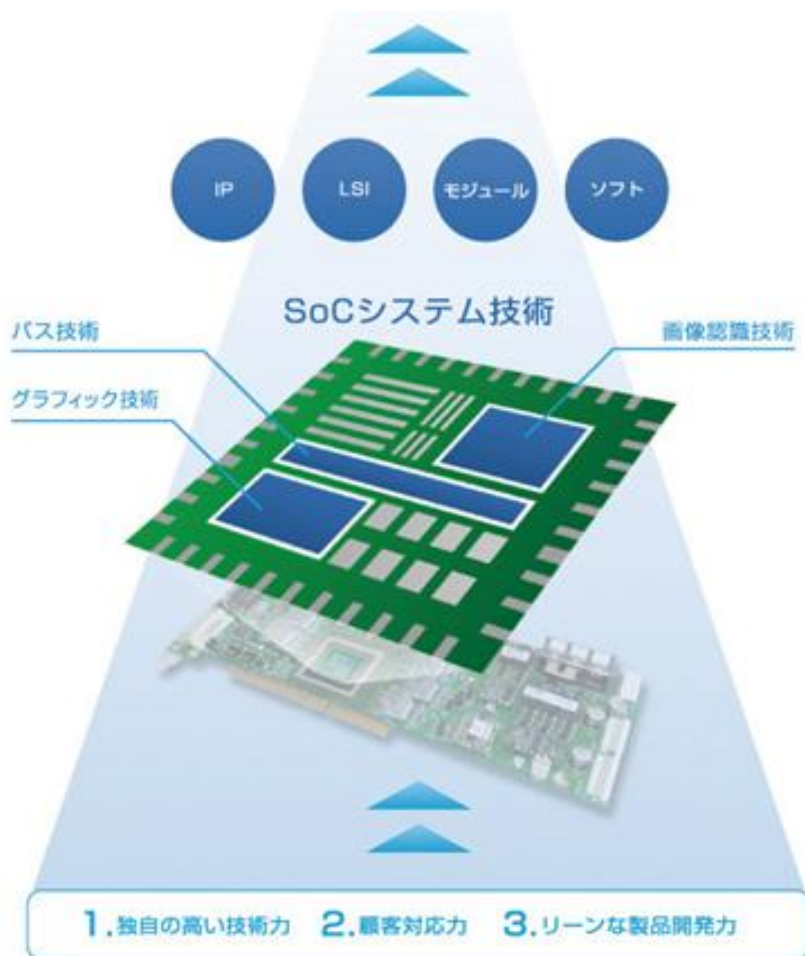
● 付加価値の高いIPコア

- ヘテロジニアスな処理環境を実現する高度なプロセッサIP
(GPGPU/画像認識)
- 低消費電力で最高のシステム性能を実現するSystem IP
- IP性能を引き出す最適化されたソフトウェアツール群

● DMP IPによる差異化されたSoC/モジュール

● プロフェッショナルサービス

- アルゴリズム
- ベンチマーク、最適化
- アプリケーション開発
- 検証



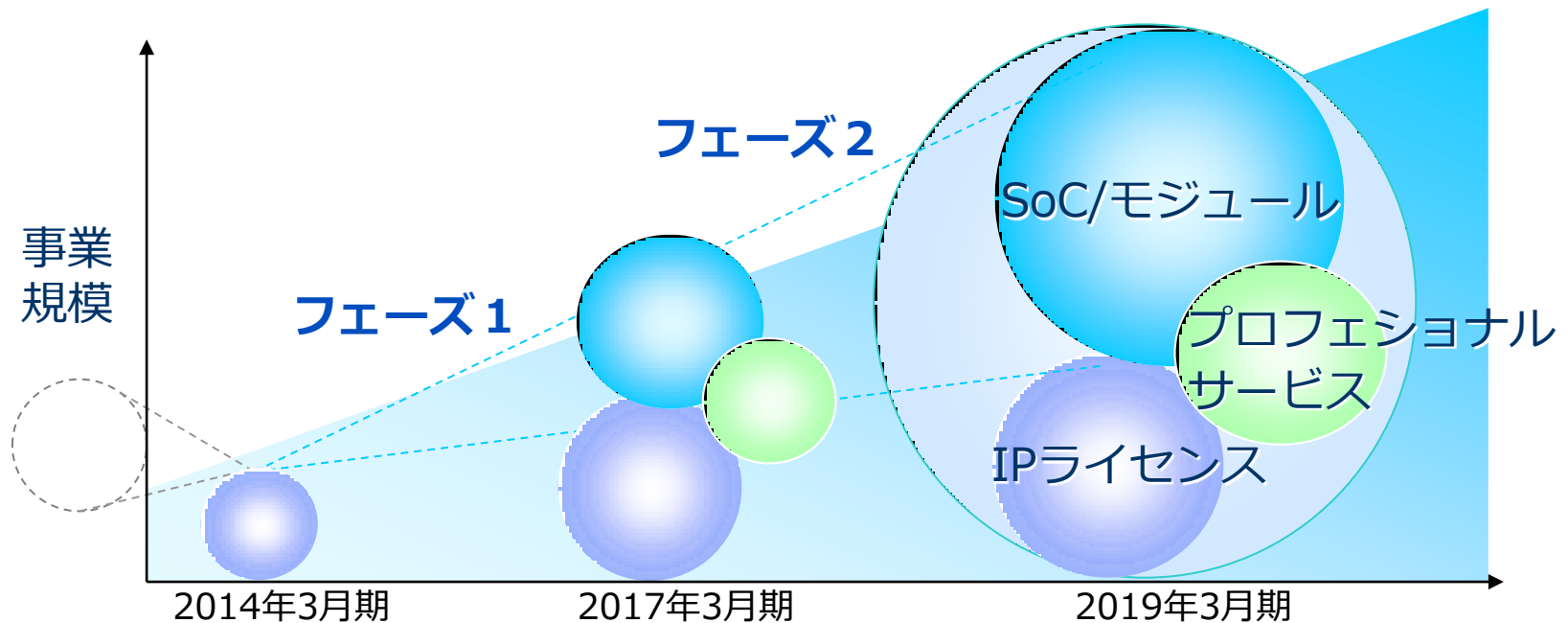
強み、競争優位性を活かした今後の展望

フェーズ1

- SoCの開発
：「勝てる」分野での製品開発
- IPポートフォリオの拡充
：画像処理分野への進出
- プロフェッショナルサービス立ち上げ

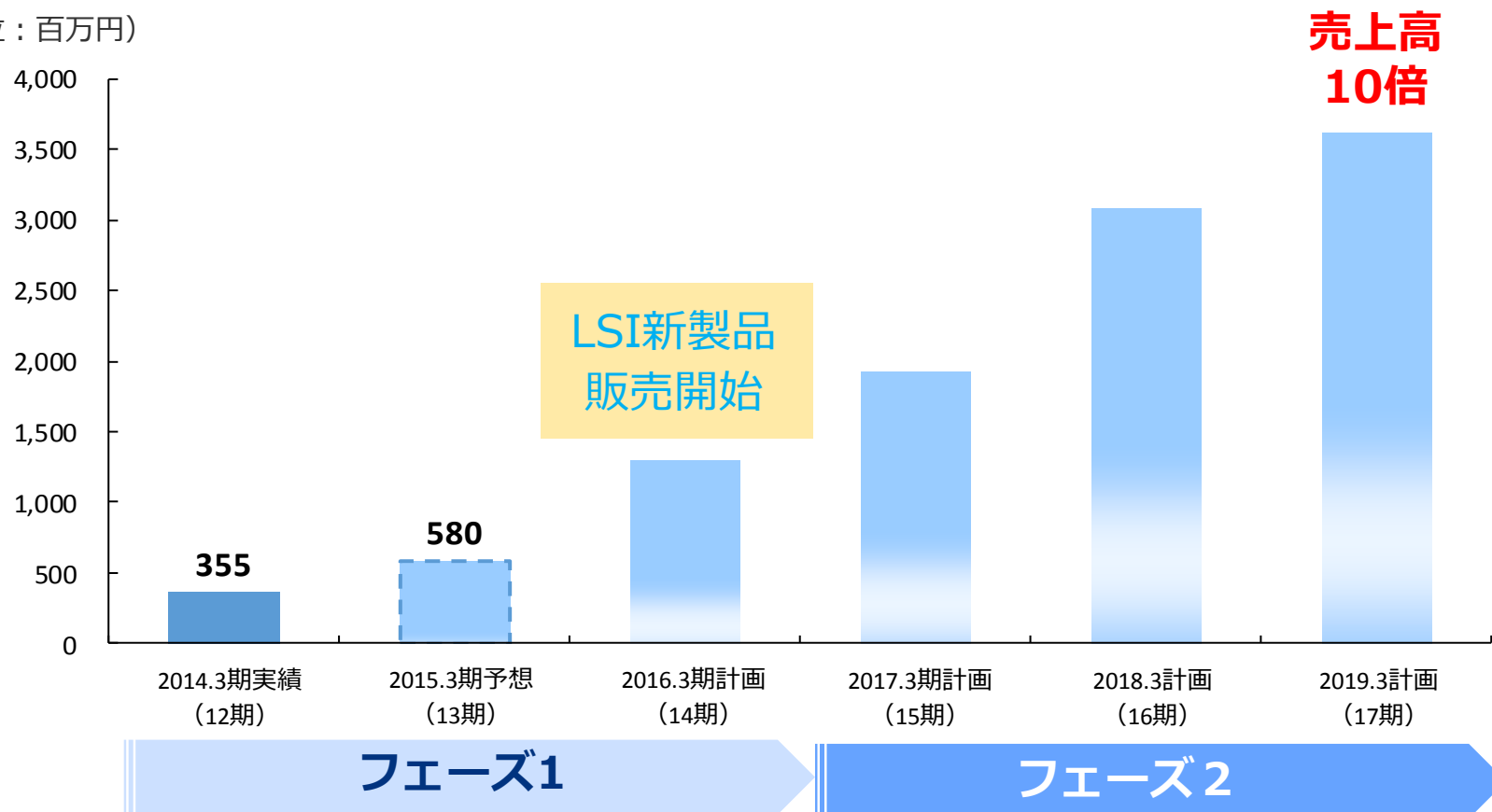
フェーズ2

- ワンストップソリューションの提供
- IPポートフォリオの拡充
- IoTに関連したサービスビジネス



IPライセンス事業の拡充、プロフェッショナルサービス立ち上げ + SoC開発、拡販により事業を構築・拡大

（単位：百万円）



(Appendix) 戦略的提携について

半導体業界売上トップのエレクトロニクス商社 (株)UKCホールディングスとの業務資本提携により、事業基盤を強化



+



◆ マシンビジョン・ソリューション共同開発

当社の持つコンピュータビジョン技術とUKCグループのコア商材であるソニー製イメージセンサー等、映像関連商材を組み合わせた自動車、医療分野等向けのソリューション開発

◆ 事業展開に資する経営資源の相互活用

UKCグループが培った品質管理・検査ノウハウを当社のLSI開発等に活用

◆ IP販売

UKCグループが持つ国内外の広範な販売チャネルを活用し、当社のIPコアや次世代LSIの販売強化

◆ その他提携事項

両社の映像・画像領域における強みを融合した新規アプリケーション等の開発

（株）ヤマハとの開発・販売提携により、LSI製品ビジネスを強化



+



◆ 画像表示用LSI製品の開発・販売の業務提携

ヤマハ半導体事業部が重点テーマとしている画像表示用LSI製品の開発・販売において、今後の市場競争力確保のためには3D表示エンジンを初めとする高度なグラフィックス技術が必須であること。このため、当分野で高い技術を持つDMPと画像表示用LSIの開発・販売に関する業務提携を行う。

DMPは、ヤマハの豊富な半導体開発・製造及び市場経験から得られるノウハウを次世代のLSI製品に生かすことで、今後のLSI製品ビジネスのより一層の強化を図っていくことができる。